

平成31年度に向けた農林水産部の施策の基本方針

平成30年11月定例会（付託）
経済委員会資料 資料1
農林水産部

I 人を『育む』

★「即戦力人材」の育成

- ・「農業大学校」及び「林業・漁業アカデミー」の人材育成の充実・強化
- ・高校・農大・大学連携による就学機会の充実
- ・「かんきつ人材」の育成
- ・「6次産業化人材」などの新たな人材育成

★「多様な担い手」の確保

- ・農林水産女子のチャレンジを応援
- ・農福連携による障がい者の活躍促進
- ・アクティブシニアなど多様な人材の活躍促進

★就業希望者の受け皿への支援

- ・サイエンスゾーンへの企業、大学の参入促進

II 生産を『増やす』

★産学官連携による技術革新の加速

- ・IoT、AIなどを活用した「スマート農林水産業」の研究開発と現場実装の推進

★気候変動対策の推進

- ・温暖化適応技術の開発と新品種の研究
- ・温暖化を逆手に取った新品目への挑戦

★本県の強みを活かした産地づくりの推進

- ・市場対応型産地の育成
- ・課題品目を解決する園芸産地構造改革の推進
- ・「とくしまエシカル農産物」の生産拡大

★林業プロジェクトの進化

- ・主伐、再造林の循環サイクル確立
- ・生産コストの低減とさらなる県産材の増産

III マーケットを『拓く』

★進化するとくしまブランドの展開

- ・「阿波ふうどリズム」による食の魅力発信
- ・ターンテーブルを核とした魅力の発信
- ・航空便活用による新鮮食材の供給と空輸システムの定着

★輸出促進によるグローバル展開

- ・「GI」、「GAP」、「HACCP」、
「ハラル認証」などの取得支援
- ・EUやイスラム圏への農畜産物の輸出拡大
- ・「徳島すぎ」の魅力発信と新たな商品開発

★6次産業化の推進

- ・産学官金連携による6次化商品の開発

IV 生産を『支える』

★「とくしまブランド」を支える生産基盤の整備

- ・農産物の品質向上を図る国営かんがい施設整備
- ・高収益作物栽培に向けた農地の汎用化・畑地化
- ・中間管理機構と連携した基盤整備・農地集積

★大規模災害を迎え撃つ強靱化と事前復興の推進

- ・復旧・復興の迅速化に向けた「地籍調査」の推進
- ・ため池の防災・減災対策の強化
- ・地域住民の安全安心を確保する農林道の整備

★生産基盤の戦略的な維持管理

- ・森林環境税創設に伴う
新たな森林管理システムの構築・運営
- ・保安林及び県版保安林の適正な配備と管理

2020年を
見据えた

「世界市場」への挑戦など 「攻め」の施策展開

★農林水産業の競争力強化

- ・輸出にチャレンジする人材の育成
- ・輸出型産地の形成など国際競争力の強化
- ・「スマート農林水産業」の実装
- ・「とくしまブランド」を支える生産基盤の整備

★海外展開の推進

- ・輸出国・地域及び輸出品目の重点化
- ・現地の需要創出による新たな市場開拓への挑戦

★インバウンドの推進

- ・地域資源の磨きあげとブランド化の推進
- ・「農山漁村滞在型旅行」の推進

V 地域を『守る』

★農山漁村地域の魅力創出・交流促進

- ・農林漁家民宿の充実・拡大
- ・地域資源を活用する「むらのたから」の認定促進
- ・農山漁村の歴史的景観、文化、伝統食材、
伝承活動等の保全・活用

★野生鳥獣の被害軽減と阿波地美栄消費拡大

- ・「阿波地美栄」の「食文化」としての定着を図る
捕獲から加工・流通・消費まで一貫した取組強化

★多様な主体や協働・交流による地域支援

- ・農山漁村地域の協働活動を支援する
企業・大学等の「応援し隊」の体制を強化
- ・「協働の森づくり事業」の新たな連携推進

農林水産業の成長産業化を加速させ「もうかる農林水産業」を実現！